三重県委託事業　人権保育専門講座８（連続講座③）

常磐会短期大学 教授　卜田（しめだ）　真一郎（しんいちろう） さん
ゲスト　山口（やまぐち）　歩（あゆみ） さん

人権保育専門講座８では、今年度も専門性を高める研修として、全３回の連続講座を開催しました。第３回は11月22日に山口歩さんをゲストにお招きし、「もし願いが叶うなら ～母ちゃん父ちゃんのおもしろ子育て奮闘記～」と題して、子を持つ保護者の立場からお話をしていただきました。

私の息子は、知的障害を伴うASD（自閉スペクトラム症）です。長男のマオに障害があると分かって少しして、次男のユウにも同じ障害があると診断されました。自閉症ってみなさん知っていますか？生まれつきの障害です。他人のことばや気もちを理解することが苦手です。自分の気もちを人に伝えることも苦手です。私たちと「感じ方」がちがいます。混乱した感覚の中で、必死に暮らしています。

兄のマオは、23歳。会話は苦手…でも、お絵描きは大好きで、小さいころからいろんなところに描くわ描くわで、家中の壁や机に描かれたことも（笑）。弟のユウは20歳。少し会話はできますが…、こだわりは多めに食べることとアンパンマンが大好きな愛と勇気の人です（笑）。　～（中略）～

これまでの子育てをふり返ると、幼少期の子育ては、どう接したらいいのか、振り回される日々で、未来が見えませんでした。マオの障害がわかったときはショックでしたが、それと同時に、マオの不思議さが何か分からなくてモヤモヤしていた時より不思議さが分かり、スッキリした気もちもありました。みんなと同じでなくてもいい、子どもたちの笑顔を大切にしよう。手探りの子育てがはじまりました。

～（中略）～

てんやわんやを乗り越えて小学校、中学校へ。特別支援学級に在籍しました。数字や文字などの学習面だけでなく、人との関わり、生活する力を身につけることを大切にしてもらいました。何か理由があると一緒に探ってくれる、うちの子を好きになってくれるそんな先生に出会いました。「どうやったら参加できるかな？」そんな先生たちの言葉が嬉しかったです。学校で、地域で、暮らしの中で、理解と工夫があれば、できることが増えていきました。音に敏感で耳をふさいでいたマオが笑顔で歌えるようになった音楽の授業。ユウの帰りを学年のみんなが待ってくれていたマラソン大会。「マオくんと一緒に寝たよ！！」友だちの言葉が嬉しかった修学旅行。ときには、上手くいかず、ふさぎ込むお友だちを励ますこともありました。さまざまな人との出会い、一緒にいる経験を通して、みんな大きく成長させてもらいました。

～（中略）～

兄のマオは、特別支援学校の高等部を卒業し、福祉事業所に通っています。弟のユウは、駅前のカフェでお仕事をしています。これまでの子育てをふり返ると、この子たちが通常発達だったらと思うこともありました。しかし、今のまま、ありのままのこの子たちが、笑顔で過ごせる社会であってほしいと願っています。父母がいなくなっても…。これからも「ありのままに」この街で、笑顔で暮らせる未来を願っています。

【参加者の感想】

- 山口さんの我が子への愛情と日々の生活を楽しまれているお話を聞き、自然と何度も涙が出てきました。子育てのなかでしんどい経験もあるなかで、笑顔たっぷりにお話していただいて、感謝しかありません。当事者の方ばかりが努力しなければいけない社会が変わるように行動していきたいと思いました。
- 一人ひとり「感じ方」がちがう子どもたちに、保育者がどれだけ気づき、寄り添っているかを考えさせられました。一見、理由なく“怒っている”“わがままを言っている”と見えることでも、それぞれに理由があり、保育士（私自身）の「感じ方」のものさしで見ていないかをふり返ることができました。一人ひとりの「感じ方」に寄り添い、なぜこのように思いを表現しているのかに気づける保育者でありたいと思います。自分自身のものさしを日々問い直し、どの子にとっても１番の理解者でありたいと感じました。
- すべての人たちがありのままで暮らしていける、笑顔で生活できる社会をつくっていかなければならないと強く感じました。私たち保育士も、子どもたちをできるできないで見ていないか、子どものありのままの姿を受け入れることができているか、日々の保育でふり返っていく必要があると思います。